

「SRT」が2022年、 放送業界で加速する!

Inter BEE 2021 では、映像を公衆回線で高画質・低遅延・安全に伝送できる映像伝送プロトコル SRT (Secure Reliable Transport) の関連製品・ソリューションを出展する企業が増えた。SRT は今回の Inter BEE の主要テーマの一つになったと言っていい。伝送技術からトータルソリューションに大きく進化した SRT の最新動向と、編集部が目じた各社の SRT 製品・ソリューション展示を特集する。(渡辺 元・本誌編集長)

【図1】パケットロスでも高品質映像を伝送できる SRT



パケットロスがある映像を SRT と UDP でリアルタイム伝送して比較したデモ。左下はパケットロスがない映像。左上は UDP 伝送 (H.264 で圧縮) したパケットロス (2%) の映像。右上は SRT 伝送 (H.264 で圧縮) したパケットロス (2%) の映像。右下は SRT 伝送 (HEVC で圧縮) したパケットロス (2%) の映像。左上の UDP 伝送では映像が破綻しているが、右上と右下の SRT 伝送は、左下のパケットロスがない映像と同等の品質を維持している

SRTを最も熟知するHaivision 山本克己氏に聞く

2022年、SRTが日本で本格普及する条件が揃った!

SRTはこの1年で大きく進展した。SRTをサポートする放送機器ベンダーの数が世界でさらに増加。日本ではこれまで、SRT対応ソリューションは伝送機能が中心だったが、制作や配信までを含めたトータルソリューションが各社からリリースされた。国内の放送局でのトライアルや実運用での導入も増えている。SRTプロトコルを開発しオープンソースにしたカナダ Haivision 社の放送・エンタープライズ・パートナー担当で、国内外の SRT の最新状況に精通している山本克己氏にインタビューした。(取材・構成: 渡辺 元・本誌編集長)



山本克己氏

Haivision
Director, Broadcast & Enterprise Japan